

第1回関西支部研修会 事後報告

日時:令和5年5月28日(日)
場所:京都テルサ



田原 秀起 (兵庫県)

令和5年5月28日(日)京都テルサにて令和5年度第1回関西支部研修会が行われました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられてから、初の研修会となりますが、今回もハイブリッドでの開催となりました。参集で約20名、オンラインでは50名以上の参加があり、数多くの先生が聴講されました。

今回は、当会会員でもあり、SJCD 講師、審美・接着のスペシャリストでいらっしゃる北原 信也先生に『審美修復治療における接着の考え方と補綴マテリアルについて』というテーマでご講演いただきました。

まず「審美修復治療の考え方となぜ接着の考え方が必要なのかについて」ということで、審美修復治療を行う際の治療のゴールについての講義がありました。

『審美』（フェイシャルエステティックス、デントフェイシャルフレームワーク、デントラビアルフレームワーク、歯の分析）の前提として、下地づくりが重要である。とのことで下記の項目を挙げられ症例を供覧しながら解説をされました。

- 機能（アンテリアガイドランス、咬合形態、舌側面形態、発音）
- 構造（支台築造、フェールル、支台歯形成、接着）
- 生物学的恒常性（バイオロジックウィズ、デントジンジバルコンプレックス、歯肉タイプ、エマージェンスプロファイル）

接着に関しては、補綴物への接着と歯質への接着に分類した上で、北原先生ご自身が昭和大学の研究室で行なった実験から得た電子顕微鏡画像をもとに解説していただきました。さらに、根管治療後の支台築造の接着の重要性へとつづき、単純に修復物が“とれない”というだけではなく、修復後に生

じる褐線や不適合を防止することで審美性や長期予後に寄与したり、マテリアル選択に応用できる非常に重要なステップであることを再認識しました。

午後前半パートでは、接着についてのデモが行われました。実際に北原先生が臨床で使用されている各種材料をお持ちくださり、材料の使い分け、手順、使用における工夫点を、詳細に実演、指導していただきました。

午後後半には「審美修復治療におけるホワイトニングの活用 審美修復治療におけるホワイトニングの活用」ということで、ホワイトニングの歴史には始まり、材料、メカニズム、最新のポリリン酸を用いたホワイトニングまで、トゥースホワイトニングのパラダイムシフトを講義していただき、ホワイトニングを併用することにより、治療の質の向上、歯質削除量の削減、技術難易度の軽減、ひいては健全歯質の保全につながるということをお示しいただきました。

接着は、私たちが日々直面している内容で、本講演で明日からの臨床に安心感が生まれました。「一本の歯を残す」ことにこだわる講義を通じて、まずは歯を残すことにここまでの努力をする事こそが真に信頼されるインプラントロジストとして大事な事であると感じました。

また講演後には、久しぶりに懇親会も行われ、大いに盛り上がった1日でした。

